令和5年度[丹後織物業の景況・動向調査] 報告書

[令和6年3月 公益財団法人 京都産業21北部支援センター]

(公財)京都産業21北部支援センターでは、丹後地域の織物業の景況・動向を把握し、関係機関等の支援施策等での活用を目的に、丹後織物事業者のアンケート調査と聞き取り調査を実施しました。

なお、聞き取り調査は、西陣織事業者及び京都室町地域の流通関連事業者を加えて実施しました。

■調査対象 丹後地域内の織物事業者(委託業者) 142事業者

■調査方法 ロアンケート調査(回答者85事業者 回答率60%)

□聞き取り調査(電話・訪問)丹後織物事業者 西陣織事業者 京都室町地区関連業者

■回 答 数 □所在地別 京丹後市 42(49%) 与謝野町 43(51%)

※参 考 令和5年丹後ちりめん生産量14.7万反/前年比93%(丹後織物工業組合データから引用)

[事業者] 集計概要

口主 たる 生産品 : 白生地 46(54%) [白生地内訳:紋26(31%) 無地2(2%) 襦袢4(4%) 小物14(16%)]

帯地 19(22%) 先染着尺 7(8%) 服地 3(4%) ネクタイ 4(5%) インテリア地 1(1%)

その他 4(5%)

□事 業 形 態 : 内機のみ 38(45%) 内機・出機 24(28%) 出機のみ 21(28%) 無回答 2(2%)

口織 機 稼 働 状 況 : 内機稼働中 1~4 台 48(57%) 内機稼働中 5~9 台 19(22%) 他

出機稼働中 1~4 台 50(59%) 出機稼働中 5~9 台 8(10%) 他

□従 事 者 数 : 内機従事者 1~4 人 68(80%) 出機従事者 1~4 人 60(71%) 他

□取 引 先:問屋 47% メーカー44% 他

II [景況] 集計概要

※景況指数DI値:「非常に良い」「良い」と回答した企業の割合から「非常に悪い」「悪い」と回答した企業の割合を差し引いた値。

□現 在 の 景 況 感 : D I 値は-45、前回(令和 5 年 1~3 月調査)の-27 に比べ 18 ポイント悪化となった。

前々回(令和4年10~11月調査)のDI値-66に比べ21ポイント改善となった。 コロナ禍後の改善の兆しが見られた後、依然として厳しい状況が続いている。

□今 後 の 見 通 し : D I 値は-50 となり、前回の-21 に比べ 29 ポイント悪化し、「やや悪い」「悪い」を合わせた

回答が61%(前回43%、前々回64%)となり先行きの不安感は続いている。

□現在の採算状況 :「黒字」から「赤字」の割合を差し引いた値は+7となり、前回に比べ10ポイントの改善。

口生 産 ・ 受 注 量 :「増加」から「減少」の割合を差し引いた値は-5 となり、前回に比べ 16 ポイントの悪化。

口今後の受注見通し : 「増加」から「減少」の割合を差し引いた値は-36 となり、前回に比べ 39 ポイントの悪化。

Ⅲ [経営を取り巻く状況] 集計概要 (回答数の多い上位項目・回答数)

口経営に関わる課題 : 原材料費 66 調達コスト 55 売上・受注の減少 49 修繕コスト 48 外注加工費 47 他

□人手不足の課題 : 織手 54 織機調整 42 準備工程 31 他 □技術継承の課題 : 製織 48 織機調整 48 準備工程 26 他

口生産体制の課題 :機器修繕 48 織機調整 46 機料品 45 たてつなぎ 44 整経 42 製織 36 織り出し 29 他

IV [今後必要な取組]集計概要 (回答数の多い上位項目・回答数)

□人材・外注先確保 : 事業所での人材採用 41 出機の確保 37 他

□設 備 等 : 設備修繕 48 設備更新 38 新規設備導入 22

□製品の企画・開発 : 新製品の企画・開発 40 製品種類の変更 17 最終製品の開発 17

□販路開拓・販売方法:取引先との取引強化 49 新規販路の開拓 24 他業種との連携 16 インターネット販売 15 他

V [事業承継]集計

□事業承継の予定 :予定はない 29 予定がある 22 わからない 22 引き継ぐ先を探したい 7

VI [必要な支援] 集計概要 (回答数の多い上位項目・回答数)

□人 材 育 成 支 援 : 織機調整 51 製織 48 準備工程 23 織物設計 21 経営改善 19 商品開発 15 他

口技術に関わる支援 : 製織トラブルの原因究明 38 製品・素材開発 29 パーク設備活用 20 他

□補助金などの支援 : 設備更新・修繕 58 新規設備導入 31 製品開発 23 販路開拓 15 他

I [事業者] 集計

■代表者の年齢■

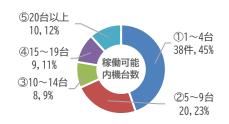


■事業形態■



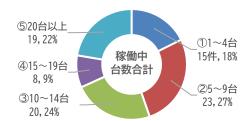
■事業規模1 稼働可能の織機台数■

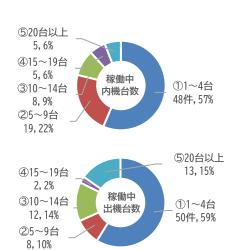






■事業規模1 稼働中の織機台数■





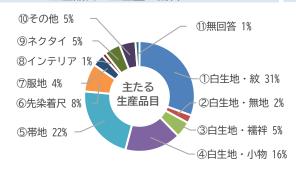
■事業規模2 内機従事者数■



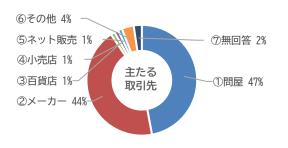
■事業規模3 出機従事者数■



■生産品目と生産量の割合■



■取引先と売上の割合■



Ⅱ [景況]集計

%DI値は、「良い」「やや良い」と回答した企業の割合から「やや悪い」「悪い」と回答した企業の割合を差し引いた値

| 1 | 現在の景況感 |
|---|--------|
| | |

| 全 体 2 | <mark>%</mark> 8% 35% 31% 24% | DI 値※ | R5 年(ポイント) | 前年比較(ポイント) |
|----------|---------------------------------|-------|------------|------------|
| ■①良い ■② | い悪⊘■い悪かや●■ 通普②■い身かか | ●全 体 | -45 | -18 |
| 白生地 | 6% 34% 22% 38% | 白生地 | -53 | -14 |
| 白・小物 | <mark>-14% 7% 36% 36% 7%</mark> | 白・小物 | -21 | _ |
| 帯 地 | 5% 48% 26% 21% | 带地 | -42 | -19 |
| 先染着尺 | 28% 29% 29% 14% | 先染着尺 | -15 | +18 |
| 洋 装 | 8% 23% 54% 15% | 洋 装 | -62 | -57 |
| 2 今後の見通し | , | | | |

| 全 体 | 11% 28% 38% 23% | DI 値 | R5 年(ポイント) | 前年比較(ポイント) |
|------|-------------------------|------|------------|------------|
| | 1 | ●全 体 | -50 | -29 |
| | 5% 19% 35% 40% | 白生地 | -69 | -27 |
| 白・小物 | 23% 39% 23% 15% | 白・小物 | -15 | _ |
| 帯 地 | 5 % 42% 111% | 帯 地 | -47 | -36 |
| 先染着尺 | 28% 29% 14% 29% | 先染着尺 | -14 | -14 |
| 洋 装 | 8% 15% 69% 8% | 洋 装 | -69 | -74 |

3 令和5年の採算状況

| 全 体 | 38% | 31% | 31% | 黒字一赤字 | R5年(ポイン | ト) 前年比較(ポイント) |
|-------------------------|---------|-----|-----------|-------|---------|---------------|
| ■ ① ∮ | 黒字 ■②トン | トン | ■③赤字 | ●全 体 | +7 | +10 |
| 白生地 | 34% | 22% | 44% | 白生地 | -9 | -9 |
| 白・小物 | 72% | | 14% 14% | 白・小物 | +58 | _ |
| 帯 地 | 21% | 63% | 16% | 帯 地 | +5 | +10 |
| 先染着尺 | 29% | 42% | 29% | 先染着尺 | 0 | +33 |
| 洋 装 | 47% | 15% | 38% | 洋 装 | +9 | +9 |

4 令和5年の生産・受注量

| 全 体 | 25% | 45% | 30% | 増加─減少 | R5年(ポイント) | 前年比較(ポイント) |
|------|-----|-------------------------|---------|-------|-----------|------------|
| •1 | 増加 | ■②横ばい | ■③減少 | ●全 体 | -5 | -16 |
| 白生地 | 16% | 38% | 46% | 白生地 | -30 | -30 |
| 白・小物 | 29% | | 71% | 白・小物 | +29 | _ |
| 帯 地 | 21% | 53% | 26% | 带地 | -5 | -5 |
| 先染着尺 | 14% | 43% | 43% | 先染着尺 | -29 | -29 |
| 洋 装 | | 58% | 25% 17% | 洋 装 | +42 | 0 |

5 今後の生産受注見通し

| 全 | 体 | 6% | 52% | 42% | 増加─減少 | R5年(ポイント) | 前年比較(ポイント) |
|-----|----------|---------------------|-------------------------|--------------|-------|-----------|------------|
| | <u> </u> | | ■②横ばい | ■ ③減少 | ●全 体 | -36 | -39 |
| 白生 | 地 | <mark>3</mark> % 4 | 7% | 50% | 白 生 地 | -47 | -35 |
| 白・小 | 物 | | 79% | 21% | 白・小物 | -21 | _ |
| 帯 | 地 | <mark>5%</mark> 26% | | 69% | 带 地 | -64 | -46 |
| 先染着 | 尺 | | 86% | 14% | 先染着尺 | -14 | -14 |
| 洋 | 装 | 25% | 58% | 17% | 洋 装 | +8 | -39 |

Ⅲ [経営を取り巻く状況] 集計

1 経営に関わる課題



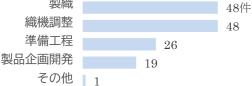
2 (1) A 事業所内の人手不足に関わる課題

取引先の廃業 9

2 (2) 事業所外の生産体制に関わる課題



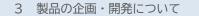






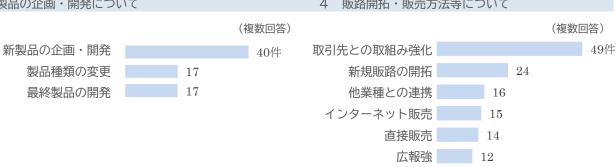
IV [今後必要な取組] 集計

1 人材確保・外注先確保について 2 設備等について (複数回答) (複数回答) 事業所での人材採用 設備修繕 41件 48件 37 出機の確保 設備更新 38 12 新規設備導入 その他外注先確保 22



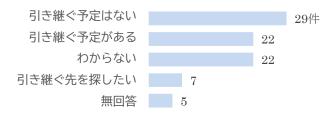
4 販路開拓・販売方法等について

その他 1

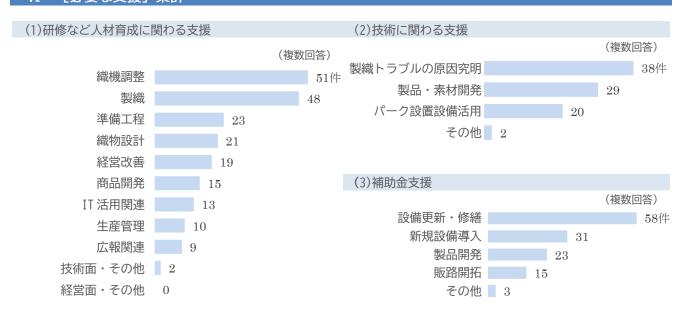


V [事業承継] 集計





VI [必要な支援]集計



VII 聞き取り調査概要

●丹後織物事業者、西陣織事業者及び室町流通業者から聞き取りを行った概要は下記のとおり。

1 丹後織物事業者

●白生地

- 1. 昨年の秋以降、円の為替相場安、中国での生産量の減産、エネルギー価格などによる生糸価格の高騰(5年前の約2倍)が進み、丹後ちりめんの減産に繋がった。
- 2. 現在の生糸価格は白生地製造・販売の限界にきており、資金力のある大手機業でしか生産が続けられないのではないか。
- 3. 織手の高齢化に伴う退職・出機の廃業から、各機業とも生産能力が低下していると見られる。
- 4. コロナ禍以降きものを着る機会が減り、また、成人式ではレンタル製品を着用するなど、ますますきもの離れが進んでいる。
- 5. 丹後ちりめん全体の生産量は減少している現状だが、需要に対してまだ生産過多の状況にあると考えられる。
- 6. 生糸価格高騰の価格転嫁は一定できており、白生地問屋から継続的に発注を受けているので今後の生産量は大きく変わらないと予測している。
- 7. 半衿、帯揚げ等の和装小物については、近年の生産現場の国内回帰の動きを受け、発注量が増える状況が続いている。

●帯・先染織物

- 1. コロナ禍後、昨年生産量は一旦増加したが、この先は出機の高齢化の原因で生産量は減少する。今後5年間で織手の高齢化が進むため、廃業することになるかもしれない。
- 2. 経錦など製織技術が求められる帯と先染着尺を生産しており、生産量・価格ともに安定し、経営は成り立っている。
- 3. 経営方針として、技術指導に力を入れ、特に若い出機を育てていかなければいけないと考えている。
- 4. お守り・神社用途の金襴を、数年前に拡大した自社工場と出機で製造しているが、コロナ禍後、昨年生産量は増加した。
- 5. インボイス制度がスタートしたが、出機が減少する中、西陣メーカーが消費税を負担する方式となっている。
- 6. 西陣メーカー数社と契約し、製品開発・生産基地として工場の役割を持ち、今後も織機の増設・織手の雇用など、工場拡大を計画している。
- 7. これまで振袖用の帯を中心に自社製品を製造してきたが、コロナ禍の在庫過多などによる振袖需要の減少に伴い、しゃれもの用帯への製品転換を進めている。

●服地

- 1. ポリエステル・レーヨンちりめんを製造しているが、コロナ禍の影響で機業の減少のため、自社の発注量は増えている。
- 2. ポリエステル・レーヨンともエネルギー価格の高騰から原価率が高く、すぐには価格転嫁できず赤字の状況となっている。
- 3. 自社オリジナルの洋装製品(ジャケットなど)の受注生産を行っているが、今後、SNSを活用するなど消費者の自社施設への誘客を進めたい。

●共通

- 1. 産地の人材不足の問題は大きく、織手だけでなく、織機調整・ジャカードなど機器修繕・吊り込み制作などに関わる人材育成が求められている。
- 2. 常にハローワークで織手を募集しているがほとんど応募はなく、実際には人づてで捜す方法になるが、採用は難しく、織手 不足の状況が長く続いている。
- 3. 織手の求人には、土日の週休2日、一定の賃金、清潔な職場環境などの勤務条件が求められるようだが、実際にその条件を 満たす現場は少ないのではないか。

2 西陣織事業者

- 1. 設備や機料品などの修繕・更新は特に問題視されているが、一番の問題は織手の雇用と育成だと考えている。
- 2. 織手育成には育てる時間とそのための費用が必要になるため、補助制度のしくみを組合に対しては要望として求めている。
- 3. 織手の人材不足と同様に、織機調整の技術者不足の問題が大きく、西陣織工業組合内に担当者を配置しているが、織機調整などの技術習得には時間を要するため難しい状況にある。
- 4. 最近、西陣織工業組合経由で、京都市産業技術研究所の開発したジャカードコントローラー装置の技術移転による支援の動きがあるが、従来機器のメンテナンス業者から民業圧迫の苦情があるなど、ジャカード装置の関連も大きな問題である。

3 室町流通業者

●白生地問屋

- 1. 5年前と比較し、コロナ禍から取引額が縮小したが、昨年は金額ベースで回復基調となり、R 6年度も更に回復を見込んでいる。
- 2. コロナ禍で売れる商品が厳選されるようになり、自社としては八丁撚糸を使用した無地ものを特に重視にしていきたい。
- 3. 他産地での生産が厳しくなる中、丹後産地に収束されると考えられ、自社としても丹後機業と緊密に連携し新しい経営の方向を模索していきたい。
- 4. 昨年末に実施された京都府の補助金については、丹後機業のプラスになるように工夫して活用することができた。

●つぶし問屋 (メーカー)

- 1. R6年の生産量は、コロナ禍での流通在庫が整理されてきたこともあり、かなり期待している。
- 2. 丹後ちりめんについては、コロナ禍でライフイベント用きもの需要の減少があり、その後も生産量は横ばいとなっている。
- 3. 生糸価格の高騰がバブル期の価格に近づいており、限界に近づいていると感じる。
- 4. 昨年末の京都府の補助金については助かったが、単価を下げて幅広い効果を持たせれば更に良いと感じた。

●前売り問屋

- 1. コロナ禍以降、R5年は約11%の売上回復を予定していたが、大手クレジット会社の対応もあり、実際には3%の微増に留まった。
- 2. ここ最近、留袖・色留袖などフォーマル需要増加の傾向もあり、R6年は前年比11%の売上増を見込んでいる。
- 3. コロナ禍の数年で、生産現場からひとが離れてしまったため、これからは各産地の製造能力低下が懸念される。
- 4. きもの市場の約8割がレンタル商品となる中、「きもの好きなひとにきものを売る」を営業方針としていく必要がある。
- 5. 消費者に対して適正価格が最も大切と考えるが、現在の流通では小売り段階での利益率が大きいと考えている。

●共通

- 1. 新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、コロナ禍による社会的慣習のカジュアル化などの影響から、フォーマルを中心とした和装需要の減少は進んでいる。
- 2. 和装着用機会の減少の継続と共に、大手ローン会社の和装製品対応措置の影響などもあり需要の縮小傾向に繋がっている。